

い、障害を持つ方が急増していくことは予想されているわけですから、福祉人材の養成・確保は切迫した緊急の課題といえるでしょう。

3. 三浦市民のボランティア意識 ——

市政モニターのアンケート結果から

(1) 市行政が「昭和63年度第3回三浦市市政モニター」において次のようなアンケートを実施しています。

問「今の三浦市で、『遅れていること』の一つは、福祉の仕事を手伝ってくださる市民 —— いわゆる”福祉ボランティア”が少ないことだと思います。そこで、どんな小さなこと（例えば、月に1回）でも、三浦の保健や福祉を良くするためにあなたのご協力がいただけるでしょうか。」

この問に対し、回答者84人中(1)「忙しくて何も協力できない」と答えたのは6人(男2人、女4人)(2)「どんなことが必要か、がわかれば内容によっては協力できる。」と答えたのは、52人(男24人、女28人)(3)「役立つならば協力してもいい」と答えたのは15人(男5人、女10人)(4)「その他」10人(男1人、女9人)という集計結果が出されました。実に、回答者の80%がボランティアに協力的意向を持っていることがわかります。

(2) アンケート結果の反省から —— 「福祉意識の養成は、関係機関職員の意識改革から始まる・・・。」

このアンケートでは、数名の回答者から、ボランティアに対するコメントがよせられています。その多くは集約すると、次のとおりです。

「積極的広報が必要と思われれます。ただ漠然とボランティアが必要といっても、協力しようという人はいないでしょう。

今、『どこに』『どんな方』が『どんなこと』で困っているのかを、きちんと整理し、それに即した広報をしていくことが、肝要かと思えます。」

このコメントには多くの問題(教訓)が含まれていて、それは①ボランティア育成の母体たるべき本会が、「三浦にはボランテ

- 「ボランティアは育たないもの」という概念にとらわれてしまったこと。
- ②市・社協双方において、福祉に関する市民ニーズの把握に弱さがあること。
 - ③①・②の結果ニーズに即したボランティアの育成をしてこなかったこと。
 - ④地域における相互扶助の精神や、コミュニティケアについて、今一度考え直してみる必要があること——などがそれです。ボランティア育成・活動の促進は、決して公的責任の回避であってはなりませんし、また本当にボランティア育成の必要性を認めるなら、「まず、福祉関係機関職員の意識を変える、つまり皆がボランティアに対し共通の認識を持ち、共にボランティアについて学ぼうという意志を持つこと」こそが、育成・活動促進のキーポイントになるとの見解に達しました。

4. いまなぜボランティアなのか ?

平成元年度の本会重点事業一つに「ボランティアの育成・活動の促進」を掲げています。では、いまなぜ、ボランティアなのでしょう。

- (1) まず、「保健福祉サービス協会」の発足効果があげられるでしょう。協会の設置によって、いわゆる市民と直接ふれあう“手”“足”を持つことができたこと（各種直接サービスの実施ニード把握における効果）また、サービス協会の設置によって、“地域福祉”について考える機会を得たこと—— というのも本会では、協会の設置に伴い「市民参加型在宅福祉サービス」の実現をめざしており、その中でボランティアの位置付け（役割・重要性）、さらにはそれに付随する行政責任についても、新たな視点から考察することができるようになったからです。
- (2) また、市が昭和61年の、年頭に当面した本市の重点施策の一つに、「高齢化社会への対応」が掲げられたのもその理由の一つにあげられます。更に国の方針も、今後「社会福祉の運営、実施については、専門性、広域性、効率性等の観点について充分配慮しつつ、住民に最も密着した基礎的地方公共団体である市町村を、その主体とすることが適当である。」としていますし、これは市町村の役割重視を意味するもので、いいかえれば、これから

の社会福祉は、市町村毎に定めていく——つまり今までは、国・県が担ってきた役割を市町村が負うというものです。今後ますます市町村は条件整備者としての性格を強めていくでしょう。また、多様な福祉サービスを展開するために、サービス供給主体の育成、いわゆる民間事業者（ボランティアを含む）の効率的活用と育成も課題となっています。いずれにしても、市政重点施策の一つに「高齢化社会への対応」が掲げられ、公・民福祉制度が充実すれば充実するほど、ボランティアの必要性が浮彫りにされてくるということなのでしょう。

3. 三浦市善意銀行 登録ボランティア紹介

(団 体)

グループ名 お問い合わせ先	活 動 内 容
三浦市手話サークル 油津仁美 ☎82-0370	会員の技術向上を目的として、毎週1回手話講習会を行ない、その技術を生かし手話通訳・講習会等を実施し、市内外の大会等に奉仕活動をしている。
みなみ手話サークル 小村和枝 ☎88-6026	会員の技術向上を目的として、毎月2回の学習会を行ない、その技術を生かして多くの活動を実施し、また聴覚障害者との交流を目的に、講習会やレクリエーション等を実施。
三浦塗装看板業組合 岩野正春 ☎86-1734	市内の社会福祉施設を対象として、年2回塗装奉仕を実施。
三浦点字サークル 上条泰子 ☎88-2843	会員の技術向上を目的として、毎月2回の学習会を実施。また、三浦市身体障害者協会が発行している「明るいあゆみ」や各種の本を点訳

	し、視覚障害者に送るなどの活動を実施。
三浦市断酒会 蛭田隆司 ☎81-7071	主に酒害防止を目的として、相談活動をし、酒害を訴えるために定例会や研修会を実施。また、市内外の大会に参加し会員の資質向上を図っている。
やまびこ会 磯崎武夫 ☎88-1032	隔月に実施している老人給食会をはじめ寝たきり老人・一人暮らし老人への慰問活動、老人ホーム・保育園等への訪問活動、地域の清掃美化運動など、福祉活動を実施。
菊名地区地域 福祉推進協議会 山田せつ子 ☎88-0210	老人夫婦世帯への身の回りの奉仕活動や、地域内65才以上のお年寄りを対象として隔月に会食会を実施。
ひばりの会 高間多栄子 ☎89-1029	視力障害者のために朗読サービスを実施。
寝たきり患者の家族 とボランティアの会 立本真須美 ☎81-3864	寝たきり患者40名を対象として、訪問入浴サービスを実施。また会員の技術向上を目的として、入浴介助の研修会等を実施。
げんき会 大井龍夫 ☎88-3027	65才以上の独居老人を対象に、月1回配食サービスを実施。
わかばグループ 石渡嘉子 ☎81-5698	市で、月1回実施しているリハビリ教室等の機能訓練事業に対する援助活動を実施。
あいあい	社協で実施している「高校生ボランティア宿

<p>山 崎 敦 子 ☎ 8 8 - 6 2 7 3</p>	<p>泊体験学習」の受講者が、月1回福祉意識・実践力の養成を目的に、講習会を実施し、そこで得た知識等を生かし、福祉施設等の行事の手伝いをしている。</p>
<p>老人クラブ 友愛チーム 森英則（事務局） ☎ 82-1111 内線455</p>	<p>独居老人等への友愛訪問等を実施。 ※市内に10チームあります。</p>

(個 人)

既存個人ボランティアには、老人趣味の会に加入している民謡、編物、書道、民踊、詩吟の各分野ごとにそれぞれ1名のボランティア指導者がおり、その他にも高齢者に対する肖像画の寄贈（2名）、視覚障害者用テープの録音（1名）活動が行なわれています。しかし、その多くは高齢者の生きがい創出ボランティアで、この分野の活動の充実に比べ、近隣の相互扶助によるところの、いわゆる介助ボランティア活動がたち遅れているのが現状です。

このため、平成元年度において各種ボランティア事業を実施していく中で、10人の方に、個人ボランティアとして登録していただきましたが、その多くは「お役に立てるならば協力したい。でも、何をすればいいのかわからない。」と明確な活動目標はもとより、こういった内容の活動を希望するのか、決めあぐねている方が大半です。当然社協としても出来る限りの支援をしていくわけですが、可能ならば“介助ボランティア活動”をしていただけるように促進、そして組織化をし、近い将来この団体を母体として、“市民参加型ホームヘルプサービス”の実現をめざしたいと考えています。